2025 年 8 月 3 日　　西村隆星

主題「今の時代を正しく見分ける」

ルカの福音書 12:53-59

序

　私たちは色んなことを見分けながら生きている。よく見て、考えて、決断する。今日ともに開いた箇所は、「今の時代」をどうして見分けないのか、というイエスのことばを中心に語られていきます。これは現代を生きる私たちにも同じように迫ってくる言葉です。今一度、私は何を軸にして見分けているのか。考えているのか。判断しているのか。ともに問われていきましょう。それでは 54-55 節をご覧ください。

１．今の時代

> ***イエスは群衆にもこう言われた。「あなたがたは、西に雲が出るのを見るとすぐに、『にわか雨になる』と言います。そしてそのとおりになります。また南風が吹くと、『暑くなるぞ』と言います。そしてそのとおりになります。***

　ここで言われていることは、「生きるための知恵」とも言えます。群衆は、当時のパレスチナの気象を適切に理解し、「西に雲が出るのを見るとすぐに、『にわか雨になる』」ことを知っているし、「南風が吹くと、『暑くなる』」ことを知っていたわけです。軽井沢で言えば、夏は一日中晴れていることや、雨が降り続けることは少ない。むしろ、突然雨が降ったり、晴れたりする。だからこそ、その気候を理解しているからこそ、洗濯物を出すことに気をつけたり、折りたたみ傘を持って行ったりする。それと同じで、実際にパレスチナは、地中海から吹く湿った空気によってにわか雨が降り、砂漠からは熱い空気が運ばれてくる。彼らはそのことを理解し、「地と空の様子」によって、これから先に起こることをちゃんと理解していた。しかし、イエスは続けて語る。56 節。

> ***偽善者たちよ。あなたがたは地と空の様子を見分けることを知っていながら、どうして今の時代を見分けようとしないのですか。***

　イエスは、54-55 節のたとえから厳しく語られました。あなたたちは、「地と空の様子を正しく見分けること」を知っているのに、どうして、「今の時代を見分けよう」としないのか、と。「今の時代」。それは、「悪い時代」。少し前の箇所でイエスはこのように言われます。11:29-32。

さて、群衆の数が増えてくると、イエスは話し始められた。「この時代は悪い時代です。しるしを求めますが、しるしは与えられません。ただし、ヨナのしるしは別です。ヨナがニネベの人々のために、しるしとなったように、人の子がこの時代のために、しるしとなるからです。南の女王が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし見なさい。ここにソロモンにまさるものがあります。ニネベの人々が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし見なさい。ここにヨナにまさるものがあります。

「今の時代」。それは、しるしは求める時代。自分を中心に、自分の願いだけを求める時代。「自分のためのしるし」を求める時代。しかし、この「今の時代」にしるしは与えられた。それは「人の子」、「イエス」がこの時代のためにしるしとなってくださった。それは、イエス・キリストご自身が救いの「しるし」となられた、ということ。そのご生涯を通して、神の国の福音を宣べ伝えられた。そして、私たちの罪を背負い、身代わりとなって十字架にかかり、三日目によみがえられた。それは私たちにまことの「いのち」を与えるため。イエスご自身が悪い、罪に死ぬ、私たちのために「しるし」となってくださった。そして、そのしるしは「さばきの火」でもあり、「分裂」をもたらすものでもあるのです。

しかし、そのことを分からない、のではなく「知ろうとしない」。それゆえに「偽善者たちよ」とイエスは非難された。あなたたちは、「地と空の様子」によって、天気のことについて、これから先に起こることを適切に理解し、判断する。そこに興味をもって、ちゃんとどうするか考えて、見分ける。しかし、「今の時代」については、興味がなく、知ろうともせず、見分けない。自分を取り巻く様々な問題について嘆いても、「イエスご自身」を求めないで、その問題自体の解決だけを求めている。自分の願いだけを追い求めている。自分に都合のいい「天からのしるし」だけが欲しいと願っている。それはまさに「偽善者」の姿。57 節にあるように「何が正しいか、自分で判断しない」。つまり、パリサイ人たちの外側だけを繕う「かたち」だけを守っていればいいと考えている、ということです。続けてイエスは 58-59 節で、「神との和解」について語られます。

２．和解

あなたを訴える人と一緒に役人のところに行くときは、途中でその人と和解するように努めなさい。そうでないと、その人はあなたを裁判官のもとにひっぱって行き、裁判官はあなたを看守に引き渡し、看守はあなたを牢に投げ込みます。あな

たに言います。最後の一レプタを支払うまで、そこから出ることは決してできません。」

イエスは裁判へと話を展開させていきます。ここで何に訴えられているのか、と考えるとおそらく 59 節にあるように金銭の問題。そのことで支払いができていない。それゆえに訴えられる。しかし、裁判官のところに行くまでの期間に「その人と和解」するように言われるわけです。なぜなら、そうでないと、その訴えた人は、あなたを裁判官に力づくで引っ張って行き、牢に投げ込んでしまうから。それも最後の 1 レプタを支払うまでは、そこから出ることができない。この 1 レプタというのは、お金の中で一番小さな単位。1 日の給料として言われるデナリの 128 分の 1。1 デナリを 10000 円とすると、大体 80 円くらいになります。つまり、借りているものを完全に返済するまでは、決して牢から出ることはできないことを示しているわけです。ここで言われていること。それは、神の前に借金、罪があるならば、さばかれる、ということ。つまり、滅びるのだ、と言っているんです。だからこそ、その猶予の期間、訴えられた者に連れて行かれるまでの時間。その期間を用いて「神と和解」求めるように語られているわけです。

結論　今の時代の生き方

しかし、この期間がいつであるのかは語られていない。いつであるのかに焦点があるのではない。そうではなく、今、私たちはその裁判に向かう途中にいるのだ、ということが明白に語られている。その「途中」「道中」というのが、まさに「今の時代」。この「今の時代」の生き方、今の時代をどのように見分けるのか、が問われているのです。57 節でイエスは言われます。

あなたがたは、何が正しいか、どうして自分で判断しないのですか。

しかし、悲しいことに私たち罪人は「正しさ」が分からない。どのように生きるのか、その方向すら自分では見出すことができない。だからこそ、どこに「正しさ」の軸を置き、向かっていくのか、が問題であるわけです。つまり、「イエス」という名のしるしに軸を置くのか。それとも自分に軸を置くのか、ということ。この軸、向かうべき先によって私たちの生き方が変わるのです。しかし、軸が定まっても、方向性を見出しても、私たちは罪人であるがゆえに完全にその生き方ができるわけではありません。しかし、ここにこそ真の正しさがあるとイエスに向かって、本気で生きるとき、できない自分に出会うんです。神の基準の「正しさ」とはかけ離れた自分がうつしだされる。自分中心な、自分さえよければ、と考えようとする「私」が見えてくる。

しかし、57 節で言われていることは、「正しいことを行いなさい」ではない。そうではなく「判断すること」が求められいるんです。つまり、ここでイエスは、「〜をしたから OK」とか「〜をしていないからいけない」と言う話をしてないんです。そうではなくて、何が正しいのか、ちゃんと自分で考えて、「判断しなさい」、そのような生き方を求めなさい、と言っている。誰かがこう言っているから、誰かにあー言われたから、ではない。私が「今の時代」の生き方を判断する。それは、「イエス・キリストという名のしるし」が与えられている時代にどのように生きるのか、ということ。自らが罪人であることを自覚し、悔い改めて、神との和解、救いを求める生き方に努めるのか。それとも、目に見えて分かりやすい「天からのしるし」だけを求めて、「イエスご自身」を求めることをしないのか。

その軸に従って「今」の生き方を私は「見分ける」。そして、イエスという軸を私たちが見分けて、そこに向かって生きていくならば、罪が示される。汚い自分が見えてくる。その時に最後の 1 レプタさえも支払えない、自分の力では「罪」の解決方法を何ひとつ持っていないことを知るんです。その絶望を知った時、私を救うのは、劇的な「天からのしるし」を見ることでも、この世の何か役立ちそうなことに頼るでもない。「イエスさまご自身と出会っていくこと」と気付く。それがまさに「悔い改める」ということ。そして、この悔い改めは、生き方を変える。キリストと同じ生き方へと変えられていく。神と敵対していた生き方、つまり、偽善者たちのように自分の好き勝手に生きることを喜びとしていた生き方から、神と和解する生き方、罪を嘆き、イエスを軸にし、イエスへと向かって生きることが喜びとなる生き方とされていく。私たちは問われている。イエスは今も問われます。「どうして今の時代を見分けようとしないのですか。」「あなたがたは、何が正しいか、どうして自分で判断しないのですか。」

色々な価値観が渦巻き、簡単に情報が入ってくるこの時代。強い意見に触れたとき、あれ？何が正しいのだろう、と心揺さぶられることもあるかと思います。だからこそ「正しく見分ける力」が本当に問われる。でもそこに必要なのは、頭の良さや知識ではなく、どんなときも変わらない「イエス・キリスト」という軸を、私の軸としていくこと。

イエスという名のしるしが与えられた「今の時代」をどのように見分けるのか。どこに私の正しさの軸を置き、どこに向かって生きるのかを判断するのか、問われながら生きる。そこには葛藤や困難もあるかもしれません。しかし、イエスという軸の中に生きる私を通して、イエスご自身をあらわしていくことができる。「イエスというブレない軸を持ちながら、何が正しいか自分で判断する」。とても難しいチャレンジですが、いつも一緒にいてくださるイエスと共に今週もそれぞれの場所に遣わされていきましょう。